

代謝内分泌内科

あなたは大丈夫ですか?“糖尿病”

糖尿病は、血糖値を下げるインスリンの量と作用が不十分のため起こる病気です。さらに体質、加齢、生活習慣の悪化でいつからか血糖が上がってしまうのです。適切な治療を受ければ、悪化を食い止めることができます。でも、軽症のうちには自覚症状を伴わないため、ついつい放置してしまう人も多いのです。

戦後間もないころには、ほとんど見られなかった糖尿病は、H19年には我が国で890万人が患っていて、1320万人に疑いがあるという大国民病となってしまうました。でも糖尿病の人の約半分しか定期的に通院していないと言われています。未通院の方は、将来大きな問題が降りかかって来ること間違い有りません。

あなたはどうでしょうか?

チェックリスト／

- 1) 肥満である
- 2) 家族に糖尿病の人がいる
- 3) 40歳以上である

- 4) 運動不足だ
- 5) お酒を大量に飲む
- 6) 夜中に2回以上トイレに行く
- 7) 最近急に太った、または痩せた
- 8) 物が見えにくくなった

※チェックがたくさんついた人は、精密検査をした方がいいと思われ、是非一度、どちらかの医療機関に受診をお勧めします。

現在、中部ろうさい病院糖尿病センターでは、約3000人の患者様がお見えになっており、長い方では何十年間も通院していただいております。今後ともこの地域の糖尿病患者様の健康に少しでもお役に立てればと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



呼吸器外科

平成19年(2007年)4月に中部ろうさい病院に呼吸器外科が新設され、約2年が経過し、昨年(平成20年1月から12月まで)1年間で呼吸器外科手術83例(肺癌35例)を行いました。

当科では、近年増加を続けている肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症、自然気胸などの外科治療を専門に行っています。

その中で原発性肺癌は日本でも年々増加の傾向を示し、1993年には男性では胃がんを抜いて悪性腫瘍の中で死亡原因の第1位(21.6%)となりました。女性においても増加傾向は同様であり、1998年には、男女合わせたがん死亡原因の第1位となりました。2005年には、肺癌による死亡数は62,058名となっており、今後さらに増加し15~20年後には、現在の約2倍~2.5倍の死亡数が予想されています。治療法は通常TNM分類による病期に基づいて決められ、臨床病期Ⅰ期、Ⅱ期、ⅢA期までを通常手術対象にして

います。近年、CTなどの画像診断の普及により、従来の胸部単純X線では指摘困難な薄い2cm以下の末梢小型肺腺癌が診断される頻度が増加しており、このような症例は手術により十分根治可能となりました。当院では、そのような薄い病変の詳細な評価が可能な64列マルチスライスCTなどの診断機器を整備しており、肺癌の早期発見・早期治療に努めております。

その他、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症などの呼吸器外科領域の疾患のことでお悩み・ご不明な点があれば何でも尋ね下さい。



★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。